

第1章 戦場

奇跡の帰還^①

やまだきちお
山田吉雄さんのお話から

- 上敷香 表紙裏地図
- 留多加 表紙裏地図
- 大泊 表紙裏地図

- ソ連 大正十一年（一九二二年）、世界初の社会主義国として成立した連邦国家。平成三年（一九九一年）に連邦が解体し、現在のロシアやウクライナ、カザフスタンなどの国々に別れた。
- 召集解除 軍隊での任務を解かれること。
- 棧橋 港で、船を横付けにするために陸から海に突き出して設けられた構造物。

私は、大正十年（一九二一年）三月に八人兄弟の長男として生まれました。

昭和十七年（一九四二年）に召集により樺太上敷香歩兵第三大隊に入隊しました。第三大隊には全部で四つの中隊があり、私の配属になった中隊は、樺太のずっと南方の留多加とか大泊の方を守っており、主に留守を守ったり、配属された初年兵の教育係の役目を担っていました。また、私は農家出身だったので、農業班に所属し、農家の畑を借りて芋などをつくったり、日曜日になったら、網を借りて川でサケをすくったりということもしていました。

昭和二十年八月十五日に終戦となり、そうなるまでは、重要な書類を処分したり、何をするともなくぶらぶらとしていました。

ところが、そうこうしているうちに、終戦後の十九日に、樺太の西海岸の恵須取からソ連が上ってきたという情報が入り、戦おうということになりました。

四つある中隊はばらばらになっていたので、留多加の小学校に集まり、大隊編成をして戦いに行くということになりました。そのときに、たった七名が召集解除され、ふるさとに帰れという命令が出されました。日本が負けたから、日本の復興に役立つ人を一部返せという部隊長命令でした。そのなかの一人に私が入っていたのです。

どんどん帰りの汽車はやってくるのですが、避難する人が満杯で乗れませんでした。そこで、避難するトラックにぶら下がって、何とか大泊の港まで行きました。しかし、棧橋に着くと憲兵と警察がいて全然入れないのです。棧橋は避難民でいっぱいのため、「召集解除という

名目で帰されてきた。」と説明しても、「いや、それは分かるけれども、今はこんな状態だから順番待ちなんだ。順番が来たら乗せるから。」と言われました。そんなものを待っていたらいつになるか分かりません。そこで、召集解除になった七人が固まっていますと目立つため、棧橋でばらばらになって隠れるように休んでいました。そうしていると、港に三隻の引揚船がきて、女性や子ども、お年寄りを乗せるために、「兵隊さん、手伝ってください。」と警察がやって来ました。そこで、避難民の乗船を手伝いながら、自分たちも乗船し降りることはしませんでした。船は夜中に出発し、朝、稚内に着きました。しかし、岸壁には着かず、沖に着いて、そこから上陸用舟艇でどんどんと人を運んでいました。私をおろした汽船はまた引き返して迎え



引揚船

イメージ図

に行ったのですが、すぐに帰ってき
ました。どうしたのかと聞くと、我々
が発するとき一隻だけ残っていた小
樽に向かった船が、ソ連の潜水艦に攻
撃されて乗っていた人は全滅したの
ことでした。

つまり私は、それに乗っていれば今
はもうここにいないのです。たまた
ま、前の船に乗っていたから助かった
ということなのです。また、召集解除
となった七人のうちに入っていないけれ
ば、ソ連と戦うことになり、一番はじ
めにやられていたはずなのです。その
ときの戦いはすごかったようです。本
当に運がよかったとしか言いようがあ
りません。

家に着いたのは、八月二十四日
でした。樺太の人間はもうみんなソ連軍に
連れていかれたという噂が立っていた
ので、みんなに逃げてきたのかと言わ



イメージ図

樺太から帰還する人々

○真珠湾攻撃 日本軍がアメリカのハワイにある海軍基地を奇襲した作戦。これにより太平洋戦争が始まった。

○大本营 明治以降、戦時または事変の際に、天皇に直屬して陸海軍を統帥した最高機関。明治二十六年（一九一三年）に定められ、のち常設の機関となつて太平洋戦争の終末まで存続した。

○南方 南の方。

○玉碎 玉のように美しくだけ散ること。全力で戦い、潔く死ぬこと。当時は、それが名誉・忠節を守ることでされた。

れましたが、「逃げていない。召集解除となりこうして戻ってきたんだ。」と言ったら、みんな本当によかったと喜んでくれました。

あの戦争は真珠湾攻撃から始まったわけですが、当時、閣僚の中には、アメリカと戦争をしてはいけない、勝ち目がないんだからと言う人もいたのに、強引にやったことを聞いています。そのときの総理大臣の判断で、犠牲になって苦しんだのは国民と兵隊だけです。当時の指導者たちは、大本营から指示していればいいのだから、痛くもかゆくもないわけです。戦争をしなくても、もっとうまい外交ができたのではないかと私は思っています。

私は幸いにして生き残りましたが、南方に行った人であれば、海軍で軍艦もろとも沈んだ人もいれば、私のいところは沖繩で玉碎しています。そういうことを思えば、戦争は絶対にしてはいけないのです。

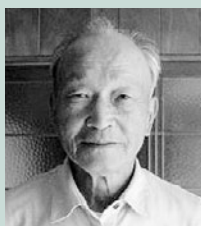
死んだ戦友たちのことを思えば、本当に気の毒です。私はいろいろな人のおかげで生きてきました。ですから、人のためにできることは少しでもやっていかなければいけないという気持ちでいます。

DATA

平成21年度西区平和事業

聴き取り

- ・平成21年9月16日
- ・自宅



山田吉雄(やまだ・きちお)さん

- ・大正10年(1921年)生まれ
- ・札幌市西区在住